

平成 22 年 1 月 7 日

2008 年度開始特別研究委員会「木質バイオマス資源の有効利活用特別委員会」
第 10 回議事録

開催日時：平成 21 年 11 月 26 日 17:00～19:00

開催場所：建築会館会議室

出席委員：浅野主査、五十田幹事、藍原委員、大熊委員、小瀬委員、小林委員、坂牛委員、
麓委員、山羽委員、高村（記）（WG 委員を含む）大城氏、大津氏、南部氏（オブ
ザーバー）

配布資料：

- 10-1 2008 年度開始特別研究委員会「木質バイオマス資源の有効利活用特別委員会」第
10 回 議事録（高村）
- 10-2 第 7 回マテリアル利用・再生 WG・バイオマスエネルギー利活用 WG 議事録（小林委
員）
- 10-3 重川材木店・南蒲原森林組合 視察（小林委員）
- 10-4 木材製品の製造時の炭素排出に関する検討（大城氏、大津氏）

報告：

(1) 前回議事録の確認

資料 10-1 にもとづき前回議事録の確認を行い承認された。

(2) 2010 年度開始特別研究委員会について（浅野主査）

浅野主査より学術委員会が約 10 日後に開催され、そこで採否が決定する旨報告があった。

審議：

(1) WG の進捗状況

(1)-1 マテリアル利用・再生 WG・バイオマスエネルギー利活用 WG

(1)-1-1 活動内容について（小林委員）

小林委員から資料 10-2 にもとづき第 7 回マテリアル利用・再生 WG・バイオマスエネルギー利活用 WG の活動内容について説明があった。報告書は各委員が関連分野について独立した読み物として準備を進めている旨報告があった。

(1)-1-2 0 材木店・M 森林組合の視察結果について（小林委員）

小林委員から資料 10-3 にもとづき 0 材木店と M 森林組合の視察結果の報告があった。以下の点について意見交換した。

- ・ チップ、おが粉、樹皮の行き先について
- ・ 未利用材の材積の求め方について
- ・ 国産材と外材の部止まりについて
- ・ 乾燥方法について

(1)-1-3 輸入木材の CO₂ 排出原単位と製材、ペレット製造の CO₂ 排出原単位の算出について
(大津氏)

大津氏から資料 10-4 にもとづき輸入木材の CO₂ 排出原単位と製材、ペレット製造の CO₂ 排出原単位の算出について説明があった。

(1)-2 建物地域システム検討 WG (五十田)

五十田幹事より報告書に掲載する事例を収集中である旨報告があった。

(2) 報告書や委員会の成果について

- ・ 次回委員会に報告書の目次とおおよそのページ数を提出する (担当: WG 主査、五十田幹事)。
- ・ 資料集の原案を作成する。(担当: 五十田幹事)
- ・ 報告書に関連する論文タイトルのリストを検討する。(担当: 小林委員)
- ・ 他学会との連携の実績や今後の方向性についてポンチ絵を作成し整理する (担当: 五十田幹事)。
- ・ なぜ木材ではなく木質バイオマス (本委員会では未利用材という扱い) であるのかという観点でまとめていく必要がある。(大熊委員より)
- ・ 解体材の位置づけについて検討すべき。(大熊委員より)
 - ・ CCA 処理木材の実態について榎本委員に情報提供していただく。
 - ・ 防火処理材について意見交換した。
- ・ 議事録を HP に掲載する。掲載の際は固有名詞を一般名称に変更する。議事録は親委員会のみとする。資料公開の可否について整理する。(担当: 高村)

(3) 今後の進め方について

- ・ 地球環境委員会の小委員会との意見交換会を実施する。(担当: 中島委員)
- ・ 次年度以降の委員会では事例マニュアルを作成する WG があってもよいのではないかと。(浅野主査より)
- ・ 水資源との係わりについて今後検討したい。(小瀬委員より)
- ・ 未利用材の利用として家具の利用があるのではないかと。また、耐火被覆材として薬剤処理した未利用材の利用があるのではないかと。(坂牛委員より)
- ・ ウィーン工科大学で木材の利用を検討している方に今後委員として加わっていただくことを検討する。(坂牛委員より)
- ・ 狭小地の改築工事における木造住宅の優位性を検討してはどうか。(麓委員より)

(4) 次回委員会

平成 22 年 1 月 7 日 17:00～